令和４年度　学校関係者評価書

学校園名　附属特別支援学校

１　学校関係者による評価

領　域	学校関係者による評価と今後の課題
学校運営	・東京学芸大学付属特別支援学校という性格通りに、運営全般に子供たちへの温かみのある配慮が随所にみられ、特別支援学校の「モデル校」としての運営がきちっとなされております。先生たちも本校の設立趣旨（だと思います）をしっかりと理解し、愛情を込めながら子供たちと接しております。授業参観を拝見し、ここの子供たちはなんと幸せなんだろうと思いました。先生方の熱心さ、優しさなどが子供たちに伝わって、授業から愛情が伝わって参りました。モデル校としての矜持も垣間見られました。 ・少人数で手厚い教育が受けられる貴重な教育機関として、もっと周知されると良いと思いました。国立ということで広報にも制約があるのかもしれませんが、ＳＮＳを利用するとか、様々なＮＰＯ法人（障がいのある子どもや不登校関連など）にも拡散するとか、何らか効率的で効果的な方法が考案されると良いと感じました。 ・受験希望者確保のための取り組みとして、入学説明会や教育関係者対象の説明会を実施していることは評価できると考えます。本学の教育理念を十分かつ正しく理解していただく機会を設けるため、学校公開について引き続きご検討いただくことを期待しております。 ・コロナウイルスの感染拡大は落ち着いてきているが、これからも手洗い消毒、換気のっ徹底を図っていただきたい。コロナウイルスの生活様式への考え方の変化に伴いこれからもリモート会議や書面での会議で効率化を図ってほしい。
教育活動	・短時間ではありましたが授業参観をさせて頂きました。先生方と子供たちとの触れ合いが素晴らしく、ここの子供たちは本当に幸せだと思いました。一方、先生方も低学年は手が掛かりますが、これが教育だと言わんばかりに熱心に優しく、子供たちと触れ合っておりました。この子供たちとの触れ合いが重要で、大切なものだと感じましたし、本校に取り入れられている大事なポイントだと思いました。この場合、先生の数が大きな要因になると思いますが、本校の場合は足りているような印象を受けましたが、専門的に言うともう少しの先生の数が必要なのかなとも思いました。 ・コロナ禍のなか、修学旅行など貴重なイベントを実施されたようで、ご尽力に頭が下がります。同時に、校外学習やイベントのようなものが多くなるほど、先生方のご負担も増すように懸念されました。いろんな体験をしてほしいという保護者の切実な要望と、先生方のマンパワーからの限界との調整が難しいと感じました。 ・新型コロナウイルスへの対応も３年になるところであり、児童・生徒・職員の感染拡大防止対策の徹底を図りながら、学習活動を広げていらっしゃることについて、先生方のご努力ご尽力の賜物であり、評価すべき点であると考えます。 ・徐々にコロナ前のように活動ができる様になって欲しい。

研究活動	・ＱＯＬは、本来は障がい分野に限らず大切な視点だと思います。いわゆる通常級で実施している教科学習がＱＯＬに資するとも思えず、日本の子どもは自己肯定感が低いと言われ、近年子どもの自死率や不登校率が右肩上がりとなっています。障がいの有無を問わず、子どもの育ち・学びとは何かを考え直す大切な研究活動だと考えています。 ・コロナによる制限がある中で、リモートも活用して研究活動に取り組んだことは評価できると考えます。 ・通常業務で大変だと思うが、これからも幅広い研究活動を期待します。
学生の教育・支援活動	・評議会の折、ちょうど教育実習期間であったため、実際に授業にトライしている学生の様子を拝見できました。どの学生も、非常に意欲的に取り組んでいましたし、教育の現場こそ実践的なＯＪＴから学ぶことが多いと思ったので、非常に貴重な機会になりました。 ・コロナによる制限がある中で、教育実習生や学生参観の受入れ、卒論等のための協力に協力されたことは評価できると考えます。 ・これからも学生との交流に努めてほしいと思う。
社会貢献活動	・「若竹会」は在校生、卒業生が主体（会員）となって、更に夫々の親御さんも会員になって子供たちを支えている会です。「若竹会」の活動は学内が殆どですから、学校側の支援協力が不可欠です。過去からの「若竹会」に対する学校側の支援、協力は非常に大きなもので、卒業生も「若竹会」に入りあたかもまだ学校にいる様な気持ちで先輩、後輩たちと休日を楽しんでおります。その一つの手段が「同好会」で運動系、文化系等の「同好会」に入り年齢の差を感じずに楽しんでおります。又、同好会の「コーチ」や「指導者」は先生方もおられますが、子供達の親御さんにも協力して頂いております。 ・障がいのある方が社会の中で広く生きやすくなるためには、物理的・心理的垣根のなくなることが肝要だと思います。コロナ禍により、企画したイベント（夕涼み会など）が実施されないこととなり残念でしたが、そうした企画があることは素晴らしいと思います。 ・コロナによる制限がある中で、研修会の開催や現場実習の実施等、地域との連携構築を図られたことは評価できると考えます。 ・これからも地域に開かれた学校を目指し、地域の関係機関との連携をして欲しい。
その他	・勤務状況に関するアンケートの職場環境等の自由記述にも載っていたが、学校の職場環境も原因なのか？ここ何年か先生の休職や早期退職が目立っている。色々な事情があると思うが、生徒たちのためにもっと落ち着いた環境づくりを行ってほしい。

２　評価の実施概要

１）学校関係者評価委員会の開催　　年２回（７月、３月）

第１回　授業参観、施設・設備の観察、
協議（学校の状況、学校経営計画、今年度の重点課題等について）
質疑、評議員からの助言・提言

第２回　授業参観、施設・設備の観察、
協議（学校の状況、今年度の反省等について）
質疑、評議員からの助言・提言

２）学校関係者評価委員会の内容

第１回　令和４年度学校経営計画について
新型コロナウイルス感染症への本校の対応について
令和３年度保護者アンケートの結果について
令和３年度教員の働き方についてのアンケートについて
令和３年度学校関係者評価書

第２回　学校経営についての今年度の状況・評価、各学部の状況報告
令和４年度第１回学校評議員会協議書のまとめ
令和４年度保護者アンケートの結果について
令和４年度教員の働き方についてのアンケートについて
学校評価の記入依頼

３　学校関係者委員会委員，開催日

１）学校関係者委員会委員（学校評議員）

村山　奈美子　（東京障害者職業センター多摩支所長）
河野　直樹　（東久留米市さいわい福祉センター所長）
古舘　秀樹　（東京都立清瀬特別支援学校校長）
黒松　百亜　（晴海協和法律事務所　弁護士）
山田　和孝　（やまだこどもクリニック院長）
櫻井　健全　（東京学芸大学附属特別支援学校前ＰＴＡ会長）
宮内　正敬　（東京学芸大学附属特別支援学校若竹会会長）
小瀬　ますみ　（東久留米市教育委員会指導室参事兼指導室長事務取扱）

２）学校関係者委員会開催日

第１回　令和４年７月　８日（金）
第２回　令和５年２月２８日（火）